



### 雁木町家の価値保全を

大島 美香（久比岐野）



**Q** 雪国の知恵を象徴し、上越市の歴史文化を代表する雁木町家の価値について、市の見解と保存に向けた取組、今後の方針を聞きたい。

**A** 雁木町家が連坦する街並みは、江戸時代から受け継がれた歴史・文化資産であり、観光資源でもある。これまで雁木整備事業補助金で新築55件、修繕102件、段差解消12件を支援しており、旧今井染物屋や町家交流館高田小町は町の拠点として活用している。今後は、保全条例やリノベーション促進の検討も進めていく。

### 雁木町家の防火対策は

**Q** 令和6年に本町で3件の火災が発生したが、住民の安全を守るため、市と市民が一体となった防火・消防対策について、見解を聞きたい。

**A** 上越地域消防局と市消防団は、消防・避難訓練を実施し、住民43人が参加した。避難体制や延焼防止を再確認したが、高齢者など要支援者の迅速な避難が課題として明らかになった。防災訓練を重ねて地域消防力の向上を図りたい。

**Q** 住宅用火災警報器や連動型火災警報器に係る補助制度の創設について、考えを聞きたい。

**A** 住宅用の警報器設置率は94%で全国平均を上回っているが、連動型は設置が義務ではないため把握していない。現時点で補助制度は検討しておらず、防火・消防対策に注力していく。



### 越後田舎体験事業で 交流人口拡大を！

石田 裕一（みらい）



**Q** 「越後田舎体験事業」の事務局が、上越観光コンベンション協会となつて2年が経過する。この事業は、交流人口拡大も含め、重要な事業と考えるが、市の考えはどうか。

**A** 当市の農山漁村地域における「なりわい」の一つになり得る事業であると認識している。上越観光コンベンション協会の持つ多様なノウハウをいかし、インバウンド等の新たなニーズ発掘にも意を用いながら、受入れ人数の拡大に努める。また、上越観光コンベンション協会の組織強化を図らなければならないと考えている。



大島区嶺「農業体験」  
神奈川県川崎市の中学生

### 郷人会の支援を

**Q** 「東京浦川原会」のような故郷上越を想う団体が、会員と役員の高齢化や減少等により解散を迫られている。郷人会の交流が続くように、市として何か支援できないか。

**A** 会員数の減少などの課題を抱える郷人会の現状等を鑑み、令和6年4月にふるさと応援室を設置し、首都圏での魅力発信やネットワークの強化に向けた取組を進めている。今後も各区の郷人会と連携を密にして、会の自主性を尊重しながら、組織運営をサポートする取組等について検討していく。



### 103万円の壁撤廃の 効果と影響は

熊倉 隆将（市民クラブ）



**Q** 減税により手取りが増える制度である認識しており、この政策は評価すべきものと考えている。報道にあるように現行の103万円から178万円に引き上げられた場合、103万円の壁撤廃が当市にもたらす影響はどの程度か、地方交付税と住民税双方の観点から聞きたい。また、減収が子育て政策などの住民サービス低下につながることはないか。

**A** 地方交付税については、減収とならない仕組みが備わっており、直ちに地方自治体の税収減にはならない。住民税については、減収分の3/4は普通交付税で補填される仕組みとなっているが、1/4に当たる7.5〜10億円は減収となる見込みである。市長公約として掲げた子育て支援などの取組に影響が生じることのないよう、引き続き国の動向を注視していく。

